

それ故に、私は阿母さんに、

此様な鋭敏な児には、あまりかなしいことをきかせぬがよろしいでせう。幼児の間は、なるべくそばの人も、元氣よくしてやるがよろしい。

と注意いたしました。

それから、一月二月と經つに從て、此兒はだんだん愉快に活潑になりました、泣くことも少なくなり、今では、かなしげに泣くことは殆ど全くやみ幼児らしい元氣な兒になりました。

産月の腹をひへて田植かな

### 子供服の裁縫

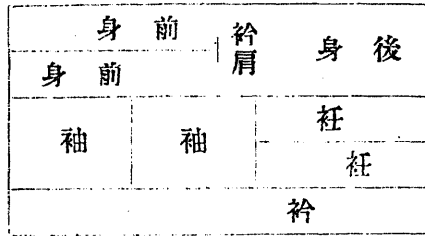
岡本 ちか

衛生上、衣服の目的は寒熱を防ぎ、皮膚の健康を保つにあれば、氣候によりて、其地質を撰ふべく、殊に更衣の季節の如き、温度の激變し易き時には、一層之が撰擇に注意して、病に冒されざる様、心掛くべきこと肝要なり。斯る時季に、最も適するは毛織にして、即ち其質よく體温を保ち、外熱を遮り軽くして柔かに、且つ暖かなれば小兒などの衣服には、最も適當なり。左に「フランネル」を以て幼児服の裁方、并に縫方につき記さんどす。

幅二尺長さ四尺五寸の「フランネル」を以て一つ身服の

裁方

一、裁方の圖



一、裁切の寸法

- 袖丈 六寸
- 袖幅 八寸
- 身丈 二尺二寸五分
- 身幅 九寸五分
- 衿丈 二尺一寸
- 衿幅 四寸
- 衿幅 二寸五分
- 衿肩 一寸

(注意) 此の裁方は一つ身裁なれど其寸法ゆる

やかなれば、三つ身服を着る位の子供にも亦用

ふることを得、尙袖は運動を自由ならしむため

筒袖となす

一、縫上寸法

袖丈 五寸五分

袖幅 六寸五分

袖口 三寸

袖付 四寸五分

脇明 六寸五分

身幅 前後共イツバイ

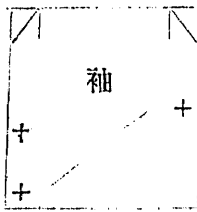
衿下 二寸五分

衿下 五寸

衿幅 三寸五分

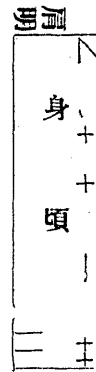
衿幅 一寸

一、縫印付方



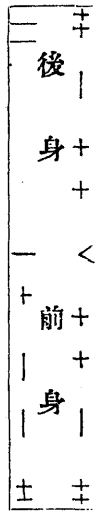
身頃は先づ表を中に後幅を二つに折り後を上  
前を下に置き第一圖の如く印をなす

第一圖

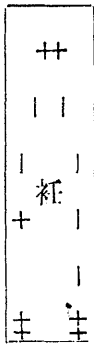


後身を左に開き前身に印を付けたる圖

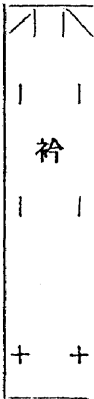
第二圖



衿は左右二枚重ねて印をなす



衿は丈を二つに折りて印をなす



一、縫方

袖は第一卷の四つ身單衣袖の縫方と同様なれば  
略す

身頃は第一脇を縫ひ折目は前布の方に返し、次に衿を取り、衿下を拵け置き、之を身頃に付く（衿下拵方は一方は上より一方は下より衿下の印より一寸五分位上まで拵け置くべし）次に裾を三つ折拵になし、衿を付け衿先を縫ひ三つ衿を入れて之を拵け、次に袖を付け、ハッ口を綴ぐる等總て四つ身單衣に同じ、

（注意）フランネルは弾力ありて縫日折目などの正しく整ひ難きものなれば縫目は返し針になし、折目は一々まつりつけ、裾、衿下、袖口などは千鳥にかゝり置くを普通の縫方とすれど幼児服の如く度々縫ひなほしをなす者

は、却て縫目は普通の縫方にして、唯針目を成るべく小さくなし、折目は二つ折縮の如くして綴ぢ付け置くを可とす

山里のくさばの露はしげからん

みのしる衣ぬはずともきよ

今 いろいろは料理

石井泰次郎

(に)

● 養浸の拵へやう

鮎にても鮎にても鱗をふき腹腸を去りて、串にさして焼きて、醤油と味淋と合せたるものにて煮こみ

又は焼たるを鍋に入れて鯉煎汁を魚を淹ふだけ入て充分に煮込ひべし、さて味淋を入れ豆油も入れて加減すべし

此時焼くに洗ひたるまゝ何もつけずして焼く、故に白焼といふなり

此時鍋のそこに引ざるとてあみたる物を入れて煮浸すべし、さうすれば、こげつく時の用心となるなり

● 二色玉子のこしらへやう

二色玉子は、玉子のよいのを一つ一つ別の器にわりまして、其わります時に、黄身は一つの器に入れ白身は又一つの器に入れまして、又別の大きなもの二つへ黄身をだんだんにまして入れ、白身もだんだんまして別々に入れまして、黄身白身兩方をかきまはしまして、先黄身一合のかさにかつを煎汁一合五勺のわりに入れてよくまぜまして、布で漉して、箱のうすいのに入れて蒸籠に入れまして二十分間ほどひし、それがよいところに上へ白